

第2期 鳴門市地域福祉活動計画

令和5(2023)年4月 ~ 令和10(2028)年3月

鳴門市に住む人みんながしあわせに暮らせる
地域共生社会を実現するための実践活動プラン

令和5(2023)年3月

社会福祉法人 鳴門市社会福祉協議会

目 次

第1章 計画策定にあたって

1 地域福祉とは	-----	1
2 地域福祉活動計画とは	-----	1
3 社会的背景と計画策定の意義	-----	1
4 計画の位置づけと計画期間	-----	2
(1) 鳴門市地域福祉計画との連携	-----	2
(2) 計画期間	-----	3

第2章 第1期計画のふりかえり

1 防災訓練での炊き出し	里浦	-----	4
2 公民館まつり	鳴門西	-----	4
3 三世代交流囲碁ボール大会	里浦	-----	5
4 防災訓練でのロープワーク講習	黒崎	-----	5
5 子ども食堂「わくわくキッチン」	斎田	-----	5
6 福祉施設の協力による外出支援	大麻(板東)	-----	6
7 福祉施設利用者との交流	大麻(堀江)	-----	6
8 防災訓練での避難所設営訓練	桑島	-----	6
9 大道銀天街「納涼市」に参加	市社協	-----	7
10 防災訓練での発電機操作訓練	中央	-----	7
11 鳴門西ふれあい広場での相談会	市社協	-----	7

第3章 各地区の地域福祉活動計画

1 木津神地区	-----	8
2 中央地区	-----	10
3 斎田地区	-----	12
4 黒崎地区	-----	14
5 桑島地区	-----	16
6 川東地区	-----	18
7 里浦地区	-----	20
8 鳴門東地区	-----	22
9 鳴門西地区	-----	24
10 瀬戸地区	-----	26
11 大津地区	-----	28
12 北灘地区	-----	30
13 大麻(堀江)地区	-----	32
14 大麻(板東)地区	-----	34

第4章 計画の推進と評価

1 計画の周知	-----	36
2 計画の推進体制	-----	36
3 計画の進行管理	-----	36

第1章 第2期鳴門市地域福祉活動計画策定にあたって

1 地域福祉とは

地域福祉とは、地域で生活する人が健康で安心して暮らしていけるように支援するための活動や施策のことで、高齢者や障がい者、子育て世代など、地域に住むすべての人たちの日常生活を支援することを目的としています。

具体的には、介護サービスや子育て支援、世代間交流の場の提供、住民参加型のイベント、また、地域コミュニティの形成を促すための活動など、様々な世代や立場の方々を支援する取り組みが挙げられます。実際の取り組みを進めるにあたっては、地域の課題やニーズに応じて、地域で生活をしている住民が主体となって計画し、実行していくことが重要です。

2 地域福祉活動計画とは

地域福祉活動は、地域福祉の推進と充実を図るための「地域での支え合いや助け合いによる活動」です。

地域福祉活動計画とは、この活動を地域住民が主体となって進めていくための計画で、市町村社会福祉協議会が地域の方々との協働により策定するものです。策定した後は、地域の個人や団体、社会福祉協議会や行政などとともに協力し合いながら地域福祉を推進していくことが求められています。

3 社会的背景と計画策定の意義

近年、少子高齢化、人口減少、単身世帯の増加、地域における昼間人口の減少など、社会構造の変化と共に地域での人間関係の希薄化が進んでいます。また、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活様式など、生活環境に大きな変化が生じていま

す。さらに、８０５０問題（８０代の親と引きこもる５０代の子の孤立化）、貧困の連鎖、老老介護、ヤングケアラー、虐待（子ども・高齢者・パートナー間）などの深刻な福祉課題も生じてきており、福祉ニーズの多様化・複雑化が進んでいます。

困りごとの解決に向けた行動が起こせない、自ら声を上げられない、誰にも相談できないなど、生活上の困難を抱えた人たちに対し、同じ地域で生活している私たちは、これらの困りごとを自分のこととして考え、話を重ね、できることから取り組んでいく必要があります。

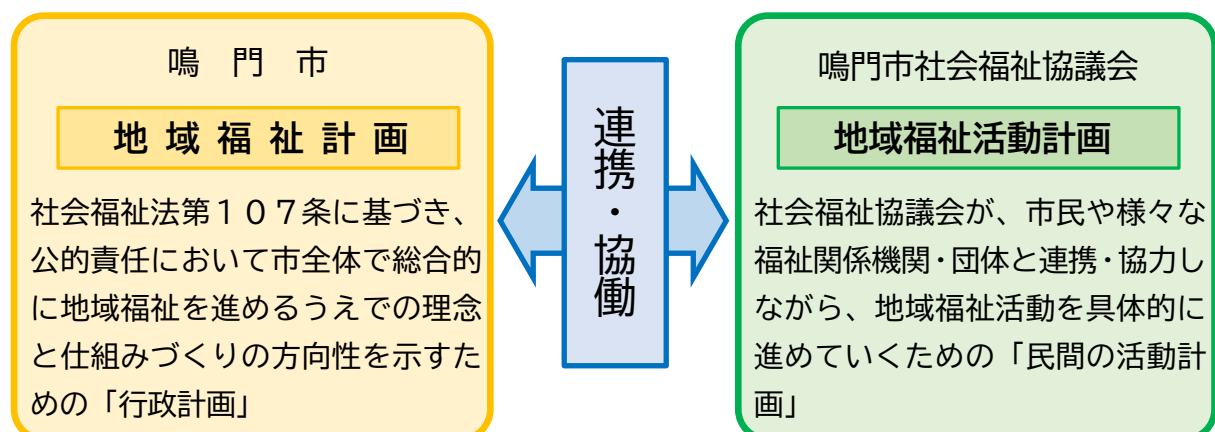
この「第２期鳴門市地域福祉活動計画」は、鳴門市が策定した「第２期鳴門市地域福祉計画」と連携・整合することを基本として、これまでの課題と成果を踏まえたうえで、新たに生じた福祉課題について、地域の方々と共有しながら地域住民が主体となって、行政・ボランティア・NPO法人・社会福祉法人及び企業等と相互に協力しながら地域の福祉課題を解決していく活動計画（アクション・プラン）として策定し、実践していくこととします。

４ 計画の位置づけと計画期間

（１）鳴門市地域福祉計画との連携

鳴門市が社会福祉法第１０７条に基づき、令和５年３月に策定した「第２期鳴門市地域福祉計画」は、地域福祉推進のあり方や、施策・支援体制を講じるための行政計画です。

鳴門市社会福祉協議会が策定する「第２期鳴門市地域福祉活動計画」は「第２期鳴門市地域福祉計画」と同じ考え方を基本とし、連携・協働しながら民間の立場から地域福祉活動を推進するために策定する計画です。



(2) 計画期間

令和5年度から令和9年度までの5か年計画とし、鳴門市が策定する地域福祉計画をはじめとする各行政計画との整合性を図りながら、時代のニーズに合うよう、計画期間内でも必要に応じて見直しを行うものとしします。

第2章 第1期鳴門市地域福祉活動計画のふりかえり

これまで、平成30年3月に策定した「第1期鳴門市地域福祉活動計画」に基づいて様々な地域活動が実践されてきました。新型コロナウイルス感染症のまん延により十分な活動ができなかった面もありましたが、工夫をしながらそれぞれの地区において課題解決に向けた活動が行われてきました。

ここでは、各地区で行われた活動や市社協での取り組みについて、その一部を写真で紹介することで、「第1期鳴門市地域福祉活動計画」のふりかえりとします。



防災訓練での炊き出し
(里浦地区)



公民館まつり (鳴門西地区)



三世代交流囲碁ボール大会
(里浦地区)



防災訓練でのロープワーク講習
(黒崎地区)



子ども食堂「わくわくキッチン」
(齋田地区)

福祉施設の協力による外出支援
(大麻・板東地区)



福祉施設利用者との交流
(大麻・堀江地区)

防災訓練での避難所設営訓練
(桑島地区)





大道銀天街「納涼市」に参加
(市社協)



防災訓練での発電機操作訓練
(中央地区)



鳴門西ふれあい広場での相談会
(市社協)

第3章 各地区の地域福祉活動計画

木津神地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	2, 6 8 8 人	民生委員児童委員	5 人
6 5 歳以上人口	8 3 6 人	幼稚園・保育所 認定こども園	0 か所
高齢化率	3 1. 1 %	小・中学校	0 校
年少者(0～14歳)人口	3 0 7 人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△4. 1ポイント	鳴門市全体の数値	△6. 8ポイント
6 5 歳以上人口の増加	4. 6ポイント		2. 6ポイント
年少者人口の増加	△8. 4ポイント		△15. 3ポイント
高齢化率の増加	2. 6ポイント		3. 3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 個人情報保護の意識が高くなり、人とのつながりを作ることが困難になってきている。
- 自身の生活に精いっぱい、地域活動に参加する余裕がない人が増えている。
- 高齢化と若い世代の無関心の両面から、町内会活動が縮小してきている。
- 地域活動に対する意識の差があり、活動の主体となる世代の交代が進まない。
- 防災意識の低下からか、訓練への参加率が低下している。
- 婦人会活動が盛んであり、地域の高齢者等への支援が出来ている。
- 地域の祭りで、子ども屋台の担ぎ手として若い世代を確保する取り組みを行った。
- 子ども会で「観音踊り」に参加している。
- 各種のニュースポーツで子どもたちを含めた三世代交流に努めている。
- 若い世代の住民間でSNSを活用した「ゆるやかな絆」が出来てきている。

3. 地区で取り組むこと

若い世代の地域活動への参加

1. コロナ禍で開催できていなかった「こんぴら相撲大会」「観音踊り」「夏の夕べ」など昔からの行事を再開し、子どもたちを含めた世代間交流や地域活動参加へのきっかけとしていく。
2. 他地域の成功例を参考にしながら、ある年齢に達したら、親世代が地域活動から退き、現役世代に引き継いでいく仕組みづくりに取り組んでいく。
3. グラウンドゴルフやニュースポーツを通じた世代間交流行事を継続して開催していくなど、できることを見つけて取り組んでいく。

地域と学校などとの連携による子育て支援の仕組みづくり

地域活動の団体が入学式や卒業式、運動会などの行事に参加して交流を深めるとともに、学校や幼稚園の教職員も地域活動に関わってもらえるような働きかけを行い、学校などを通じた接点を持てるように活動していく。

防災意識の維持と向上に向けた取り組みの推進

1. 災害時における機材貸出しの申し出があった企業との協働による防災訓練を行うなど、新たな視点からの取り組みを行うことで、地域住民に興味を持ってもらうきっかけにする。
2. 地域で実施する他の行事やお祭りに合わせて防災訓練や啓発事業を行い、災害について身近に感じてもらうことで日常的な防災意識の向上が図られるよう取り組んでいく。



中央地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	3, 438人	民生委員児童委員	8人
65歳以上人口	1, 211人	幼稚園・保育所 認定こども園	2か所
高齢化率	35.2%	小・中学校	1校
年少者(0～14歳)人口	365人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△0.4ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	0.3ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	5.5ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.7ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 個人情報保護の意識が高くなり、コミュニケーション不足になっている。
- 若い世代が地域活動自体に魅力を感じていない。
- 共働き世帯が増え、地域活動に充てる時間が持てない。
- 子育てや教育に手間と時間がかかり、地域活動に参加する心の余裕が持てない。
- 学校との関わりが少ないため、子育て支援に対する意識が乏しい。
- 災害時の避難所に関して、ペットの避難について考えている。
- 町内の防犯灯がLEDに変更されており、明るくなって安心できる。
- 年3回以上の防災訓練が出来ており、その中では実践的な訓練が出来ている。

3. 地区で取り組むこと

若い世代の地域活動への参加

1. 多くの世代が参加できる、地域の運動会やお祭りなどの行事をより充実させていく。
2. 清掃活動など、身近なところから地域活動への参加ができる取り組みを進める。
3. 市職員や元職員など、地域活動に理解があり協力的な人材が確保できるよう努める。

地域の人たちと連携した子育て支援の仕組みづくり

1. 専門家や実践者を講師に迎えて「地域での子育て」についての研修や勉強会を行う。
2. 他の先進事例などを参考にしながら、地域活動と子どもたちをつなぐ役割を担う人材や団体を発掘し、協働していく。

防災意識の維持と向上に向けた取り組みの推進

1. 地域全体で防災意識を持ち続けるために、現在実施している定期的な訓練を続けていく。
2. 防災や災害支援の専門家を講師として迎え、実際に災害が発生した際の対応策など具体的な学習を進めていく。
3. 倒壊の恐れがある空き家など、日常的な防災や防犯に関する情報の収集と共有を行い、行政への働きかけも含めた予防的対策を行う。



齋田地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	2, 245人	民生委員児童委員	5人
65歳以上人口	774人	幼稚園・保育所 認定こども園	3か所
高齢化率	34.5%	小・中学校	1校
年少者(0～14歳)人口	252人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△4.9ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	1.0ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△10.0ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.0ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 地域活動について様々な場面で周知しているが、伝わらないことが多い。
- コロナ禍の中で、これまで行ってきた行事やイベントが出来なくなった。
- 集合住宅などで町内会に加入しない世帯があり、災害時などの対応に不安がある。
- 個人情報保護の意識が高くなり、高齢者の見守り等の支援に不安がある。
- 月1回開催している子ども食堂は、子どもだけでなく大人の居場所にもなっている。
- 小学校と自治振興会のつながりが強く、PTA会長が役員として参加している。
- コミュニティスクールや100円商店街など、子どもと地域の交流が盛んである。
- 年に1回、地区全体で三世代交流会が開催されている。
- 自治振興会、自主防災会、地区社協が協働して、地域全体での防災活動が出来ている。

3. 地区で取り組むこと

若い世代への地域活動の周知と参加促進

1. 資金面での課題がクリアできれば子ども食堂の開催回数を増やし、多くの子どもや地域の方の居場所として機能させる。
2. 「ボランティアポイント」の仕組みを作り、地域活動に参加しやすい環境づくりを進める。
3. SNSを活用することで、情報発信だけでなく住民間相互がコミュニケーションを取りやすい環境を整えていく。

高齢者世帯を見守る仕組みづくり

1. 地域の高齢者に、子ども食堂の「作る側」「食べる側」の両方で参加してもらい、社会参加の促進と独居高齢者宅への配食サービスによる見守り活動につなげていく。
2. 高齢者を対象としたスマホ教室を開催し、SNSを活用できる仕組みを作っていく。
3. 町内会の中の「班」など、10世帯程度までの小単位で日常の見守り活動を行う体制を作っていく。

避難行動要支援者を見逃さないための活動

1. 現在の地域団体に加えて、地域内にある高校の協力を得ることで、幅広い災害対策が可能な体制づくりに取り組む。
2. 集合住宅など、地域団体に加入していない世帯への情報発信や支援体制づくりについて検討していく。
3. より多くの人の防災意識が高まるよう、子ども食堂との連携による炊き出し訓練を実施する。



黒崎地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	3,002人	民生委員児童委員	5人
65歳以上人口	1,053人	幼稚園・保育所 認定こども園	1か所
高齢化率	35.1%	小・中学校	1校
年少者(0~14歳)人口	283人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△4.2ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	△0.6ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△10.7ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	1.3ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 令和4年3月で黒崎幼稚園が閉園となり、今後黒崎小学校もなくなってしまうことを危惧している。子どものいない住みにくい街になるのではないかと心配している。
- コロナ禍の中で地域での行事が出来ず、交流の機会が減ってしまった。
- 個人情報保護の意識が高くなり、独居高齢者などの把握が出来なくなっている。
- 高齢化が進む中で、地域活動団体の担い手を確保することが難しくなっている。
- 子ども食堂は、地域住民がふれあう場としてとらえており、三世代交流や子どもたちが避難場所を認知することに繋がっている。
- 地域での炊き出し訓練の際に地元食材を使うことで、食育活動にもつながっている。
- 消防団が餅をつき民生委員が高齢者宅に配布することで、見守り活動として機能している。
- 小地域単位で、避難困難者の情報を共有するための取り組みを進めている。

3. 地区で取り組むこと

現役世代とともに進めていく地域活動

1. 子ども食堂の活動を続けることで、子どもや地域の方の居場所を提供するとともに、地域の子育て拠点として活用していく。
2. 地域の祭り、花街道、元旦ソフトボール大会などの行事を活用し、若い世代の担い手確保に努めていく。

地域全体で取り組む高齢者支援

1. 地域の運動会や小学校での昔遊び体験などを通じて、高齢者との顔の見える関係づくりに努め、見守り活動につなげていく。
2. 個人情報保護の観点から、町内会の中の「班」など小単位で日常の見守り活動を行う体制を作っていく。

災害に対応できる住民活動の強化

1. 自治振興会、自主防災会、町内会などの各地域団体で把握した避難困難者の情報を共有し、小地域単位で災害対策が取れる体制づくりに取り組む。
2. 防災意識と実践力向上のために、小地域単位での防災訓練を行う。
3. 地域住民それぞれの顔が見える関係を作っていくために、子ども食堂との連携による炊き出し訓練を継続して実施する。



桑島地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	4,079人	民生委員児童委員	7人
65歳以上人口	1,337人	幼稚園・保育所 認定こども園	2か所
高齢化率	32.8%	小・中学校	1校
年少者(0～14歳)人口	409人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△5.8ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	4.0ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△18.4ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	3.1ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 自治会などの地域活動に参加する住民が減ってきている。(特に若い世代)
- コロナ禍の中で地域活動が充分に行えていない。
- 地域内に空き家が目立つようになってきた。防犯や防災の面から不安がある。
- 個人情報保護の観点からやむを得ない部分もあるが、近所にどういった世帯が住んでいるのかわからない。
- 市内の中心的地域であり各種施設も充実しているため、生活上の不便は少ない。
- 年1回の防災訓練は地域全体で取り組んでおり、幅広い世代が参加できている。
- コロナ禍のため地域活動が出来ていなかったが、落ち着けば以前のような活動はできると思っている。
- 自治振興会、小学校、PTAの協働で「子ども見守り隊」活動を行っており、児童の安全な登下校が出来るよう取り組んでいる。

3. 地区で取り組むこと

地域活動の継続と次世代への継承

1. 学校やPTAと連携して、子どもやその親世代が参加しやすい行事を開催するなど、若い世代の地域活動参加に向けたきっかけづくりを進める。
2. 市職員や元職員など、地域活動に理解があり協力的な人材が確保できるよう努める。

住民同士が繋がって支えあう仕組みづくり

1. 「子ども見守り隊」の活動を拡げ、高齢者世帯を訪問することで安否確認を行うとともに、会話などにより孤立化を防ぐ取り組みを行う。
2. 買い物や外出支援の必要性について高齢者等の意向を調査し、必要性が増した際に円滑に進められるよう準備を行う。

次世代につなぐ防災コミュニティづくり

1. 集合住宅など、地域団体に加入していない世帯への情報発信や支援体制づくりについて検討していく。
2. 災害時に備えて、SNSの活用による住民間の情報共有や連絡体制の整備を進めていく。
3. 地域の事業所や福祉施設などと連携した防災訓練を行い、津波避難場所や避難所について情報共有が行えるよう検討していく。



川東地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	5, 932人	民生委員児童委員	13人
65歳以上人口	2, 021人	幼稚園・保育所 認定こども園	4か所
高齢化率	34.1%	小・中学校	2校
年少者(0~14歳)人口	648人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△5.7ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	0.8ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△12.9ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.3ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 地域活動への参加について意欲の低い人が多く、特に役職や当番などを嫌う傾向がある。
- 活動が平日の昼間であることが多く、働く世代の人との接点を持ちにくい。
- 山中への不法投棄が多くあり、清掃しても追いつかない状況になっている。
- 地域の様々な団体が集まった「子どものまちをつくる会」による三世代交流行事が盛んに行われている。(七夕、ふれあいフェスティバル、クリスマスなど)
- 道路の清掃や除草作業を行っているが、参加者は増えてきており、若い世代の人の参加も増えてきている。

3. 地区で取り組むこと

50歳代60歳代の地域デビュー推進

1. 活動の内容や時間を見直し、現役世代が参加しやすい環境を整えていく。
2. 公園清掃活動の際など、若い世代が参加している場での声掛けを行い、地域活動参加へのきっかけを作る。
3. 地域活動への理解を深めてもらえるよう、両隣、知人など身近な人への声掛けを積極的に行う。

不法投棄防止等の環境美化活動の強化

1. 小地域での除草・清掃作業を続けながら、学校や地域の事業所などの協力を得て地域全体での意識高揚につなげていく。
2. 不法投棄防止看板の設置や「パトロール隊」結成など、目に見える活動を行うことで抑止に努めていく。

避難行動要支援者の把握と支援の体制づくり

1. 町内会などの小地域単位で相互の声掛けを行うことにより地域に住む方の実際の様子を把握し、その人に合った適切な支援が出来るよう検討していく。
2. 災害の種類やその人の状況に応じた適切な避難行動が出来るよう、分散避難の考え方について地域の人に周知啓発していく。



里浦地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	3, 211人	民生委員児童委員	8人
65歳以上人口	1, 275人	幼稚園・保育所 認定こども園	1か所
高齢化率	39.7%	小・中学校	1校
年少者(0～14歳)人口	257人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△8.0ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	1.4ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△23.3ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	3.7ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 高齢単身世帯が増えているが、周りも高齢者が多く支援がままならない。
- 個人情報保護の意識が高くなり、要支援者の情報が共有できない。
- 若い世代はいるが農業従事者が多く、地域活動に参加する時間がとれない人が多い。
- 地域バスはあるが運行経路が悪くなく、バス停まで遠いため利用しにくい。
- 消防団活動が盛んであり、若い世代も活動に参加している人が多い。
- 小学校との協働で多くの活動が行われており、特に「いのちを守ろう集会」では自治会や警察との連携により子どもの安全のために取り組んでいる。
- 地域に若い世代の後継者がいることは強みである。

3. 地区で取り組むこと

若い世代の地域活動への参加促進

1. 学校行事をとおして地域活動への理解を深めてもらい、子どもの保護者世代を中心とした若年層の参加を促していく。
2. 活動や会合の実施に際し、現役世代が参加しやすい日程や時間帯に設定するなど、多くの人が参加できるようにしていく。

高齢者の見守り活動と災害時に対応できる体制づくり

1. 町内会の中の「班」など、10世帯程度までの小単位で日常の見守り活動を行う体制を作っていく。
2. 防災意識と実践力向上のために、町内会など小地域単位での防災訓練を行う。
3. 里浦南防災センターを活用して、津波災害に備えた訓練を実施する。

買い物・外出支援の支え合いの仕組みづくり

1. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。
2. 買い物や外出支援の必要性について高齢者等の意向を調査し、必要性が増した際に円滑に進められるよう準備を行う。



鳴門東地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	1, 232人	民生委員児童委員	3人
65歳以上人口	624人	幼稚園・保育所 認定こども園	0か所
高齢化率	50.6%	小・中学校	1校
年少者(0~14歳)人口	55人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△11.6ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	6.7ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△12.7ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.6ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 以前から若い世代は少なかったが、結婚などを機に地区から出ていく人が多い。
- 地域活動の主力となる消防団員が勤め人であることが多く、時間の確保が難しい。
- 引きこもりや障がいなどの問題は、知られたくないという意識からか隠す傾向がみられ、表に出てきにくい。
- 人が少ない地域だからこそ、地域でのつながりは深い。
- 地区会長が地域住民のことをよく把握できている。
- 移動販売や配食サービス、通信販売などが活用できている。

3. 地区で取り組むこと

地域活動に全世代が参加できる体制づくり

1. 行事などの日程や時間を調整し、現役世代が地域活動に参加しやすい環境づくりに努める。
2. 若年層を中心とした集まりを作り、既存の組織にとらわれない活動が始められるよう働きかける。

外出・買い物の助け合い・支え合いの仕組みづくり

1. 移動販売や食事の宅配など活用できるサービスについて広く情報提供を行い、生活面での不便さを解消するための支援を行う。
2. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。(社協の公用車の活用など)



鳴門西地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	4, 977人	民生委員児童委員	6人
65歳以上人口	1, 169人	幼稚園・保育所 認定こども園	2か所
高齢化率	23.5%	小・中学校	2校
年少者(0~14歳)人口	673人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△1.7ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	7.9ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△13.8ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.1ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 若い世代の転入者は多いが、接する機会が少ない。
- バス、渡船の便数が少ない。バス停までの距離が遠く利用しづらい。
- コロナ禍の中で、地域での集まりなどに参加できないが続いている。
- 公民館を中心として広い世代が集まる機会も多く、活気がある。
- 地域の団体やボランティアの活動が盛んに行われ、住民同士の繋がりが強い。
- 比較的若い世代が多く、子育てにも良い環境である。

3. 地区で取り組むこと

近所の人との付き合いを深めるための取り組みを進める

1. 「いきいきサロン」の開催場所を増やし、小地域単位で集まりやすい居場所づくりを進める。
2. チラシなどに加え町内会や班の単位で各家庭を訪問し、地域活動のお知らせやお誘いをするなどお互いの顔が見える関係づくりに努める。
3. SNSの活用により、情報発信とあわせて住民間相互がコミュニケーションを取りやすい環境を整えていく。

買い物や外出の支援方法を考えよう

1. 地域で行っている産直品販売について、利用者の声を積極的に取り入れ充実させていく。
2. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて乗り合わせで買い物に行ける仕組みづくりを進めていく。
3. 移動販売や食事の宅配など活用できるサービスについて広く情報提供を行い、生活面での不便さを解消するための支援を行う。

地域全体で高齢者世帯に対する見守り支援を行う

1. 成年後見制度や認知症サポーターなどの制度についての学習を深め、必要になったときに円滑に利用できるような体制づくりを進める。
2. 「公民館まつり」など多くの人が集まる機会に現役世代と高齢者等をマッチングする機会を作り、様子伺いや見守りのきっかけづくりを行う。



瀬戸地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	4,031人	民生委員児童委員	13人
65歳以上人口	1,756人	幼稚園・保育所 認定こども園	2か所
高齢化率	43.6%	小・中学校	2校
年少者(0～14歳)人口	298人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△6.8ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	4.5ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△16.8ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	4.8ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 若い世代が地域から出ていき、高齢者が高齢者のケアをしている。
- 放置された空き家が増えており、防災・防犯上の危険を感じる。
- 町内会に加入しない世帯が増えており、地域コミュニティが壊れる不安がある。
- 地域のインフラと言える商店、金融機関、病院などがなくなっている。
- 老人会や婦人会が「いきいき百歳体操」などの回数を増やし、活発に活動している。
- 「コミュニティのつどい」では子どもから高齢者まで多くの人が集まっている。
- 未就学児とその保護者を対象とした「親子ひろば」事業が地域に定着している。
- 老人会で小地域単位での高齢者の見守り活動を続けている。

3. 地区で取り組むこと

全世代が安心して暮らせる街づくり活動を行う

1. 地域の様々な世代や立場の人が集まって「子ども食堂」を実施し、子どもだけでなく地域の方の居場所として機能させる。
2. 中学生に地域の行事などへの参加を促し、地域の一員としての帰属意識を高めてもらう取り組みを進める。
3. いきいきサロン活動の一環として子ども食堂などの事業に関わってもらい、世代間の交流を促進していく。

助け合いによる買い物や外出の支援

1. 市社協の公用車（ワゴン車）を活用した外出支援について、高齢者等への十分な説明を行うことで理解を得るとともに、利用者の意見も聞きながら使いやすい仕組みを考えていく。
2. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。

地域で安心して暮らしていくための見守り体制づくり

1. 老人会で進めている小地域単位での見守り活動を継続しながら、老人会への加入者を増やしていくことで体制の充実を図っていく。
2. いきいきサロン活動への参加者を増やすことで顔の見える関係づくりを進め、住民相互に見守りができるようにしていく。



大津地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	7, 462人	民生委員児童委員	14人
65歳以上人口	2, 673人	幼稚園・保育所 認定こども園	3か所
高齢化率	35.8%	小・中学校	2校
年少者(0～14歳)人口	796人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△5.1ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	1.0ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△7.9ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.1ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- コロナ禍の中で、これまで行ってきた行事が出来なくなり、地域の中の繋がりが減っている。特に世代間交流の場が少ない。
- 地域にもよるが、公共交通の不便さを感じる。
- 災害時の避難場所がわかっていないなど、防災への関心が薄い人がいる。
- 移動スーパーなどの利用者が増えてきている。
- 地域の繋がりを再構築するために、祭りや芋ほり、ジャンボ鍋など子どもが参加できる催しに取り組んでいる。
- 防災に関して、地域の特性に応じた形で各地区での会合が行われている。

3. 地区で取り組むこと

地域の繋がりを再構築するための取り組みを進める

1. 以前に行っていたソフトボール大会やグラウンドゴルフなど、現役世代が参加できる催しを再開できるよう各団体で取り組んでいく。
2. 神輿、獅子舞、祭りなどの伝統的な行事を次の世代に引き継いでいけるよう、若い世代のリーダーへの働きかけを行う。
3. 自治会などの会合を多く開催し、小地域単位でのつながりを深めていく。

買い物や通院などの移動手段確保の仕組みづくり

1. 介護タクシーなど高齢者世代が利用できる制度について周知することで、不便さが解消できるよう取り組んでいく。
2. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。(社協のワゴン車の活用など)

日常生活の中で防災意識を高めていく

1. 災害時の対応について話し合うなど、消防団と自主防災組織の連携を進めていく。
2. 避難場所への案内板を掲示するなど、多くの人にわかりやすい防災情報を提供していく。
3. 非常食や防災用品を提供、地元食材を使った炊き出しなど、興味を引く内容で多くの人が参加しやすい防災訓練を行う。



北灘地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	1、625人	民生委員児童委員	10人
65歳以上人口	862人	幼稚園・保育所 認定こども園	0か所
高齢化率	53.0%	小・中学校	0校
年少者(0～14歳)人口	67人		
人口の増加	△12.7ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	△1.0ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△24.7ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	6.2ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 人口減少に伴い、若い世代が減少している。
- 農作物への鳥獣被害が広がっている。
- 管理者不在の空き家、空き地が増えている。
- 「いきいき百歳体操」がコミュニティの集まりの場として機能している。
- それぞれの地域でのつながりが強く、一体感を持った行事や催しができている。
- 公民館を中心に「北灘まつり」が開催され、住民が交流する場となっている。
- 廃校を活用した新しい事業が始まり、地域の活性化が期待できる。

3. 地区で取り組むこと

地域コミュニティの維持と若い世代の参加

1. 地域交流の場となっている祭りや防災訓練の企画や運営を、消防団などの現役世代が中心となって行っていく。
2. 各地域で行われているいきいきサロンの活動について、開催日程を調整するなどして若い世代が参加できるようにしていく。

見守り活動による孤立の防止

1. 地域活動への参加に消極的な人に対して、清掃活動など参加しやすい行事の際に声掛けを行い交流のきっかけを作っていく。
2. 高齢者世帯への配食サービスの際に声掛けを行い、困りごとなどを聞くことで福祉サービスにつなげていく。

買い物・外出の支えあいづくり

1. 隣人への声掛けによる個人的な買い物支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。(社協のワゴン車の活用など)
2. 移動販売や食事の宅配など活用できるサービスについて広く情報提供を行い、生活面での不便さを解消するための支援を行う。



大麻(堀江)地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	5,044人	民生委員児童委員	15人
65歳以上人口	1,946人	幼稚園・保育所 認定こども園	2か所
高齢化率	38.6%	小・中学校	3校
年少者(0~14歳)人口	469人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△7.2ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	0.8ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△10.3ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	3.1ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- 市街化調整区域が多く、新しい人が入ってこられない。
- 若い世代に町内会など地域団体の必要性を理解してもらえない。
- 老人クラブへの入会者が減少し、活動が衰退してきている。
- 防災のための活動には親子で参加してくれている。
- 地域の方の協力により、小学校と幼稚園での芋ほり体験を行っている。
- 公民館でのいきいき百歳体操が盛んに行われており、高齢者の交流の場になっている。

3. 地区で取り組むこと

若い世代への地域活動への参加促進

1. 若い世代が参加する防災訓練などをとおして地域活動に関する周知を行い、参加へのきっかけづくりをしていく。
2. 地域活動の団体が学校行事に参加して交流を深め、学校などを通じた接点を持てるように活動していく。

高齢者や障がいのある方とのつながりを深めていく

1. 公民館で行っている障がい者施設利用者との交流活動を続けていくことで、相互理解を深めていく。
2. いきいきサロン活動との連携により地域活動を多くの人に知ってもらい、お互いに協力しあえる関係づくりに取り組んでいく。

困りごと解決に向けたネットワークづくり

1. 心配ごと相談所事業の利用者がすばやく問題解決に向けて行動できるよう、市社協や市との連絡を密にとっていく。
2. 買い物や外出について、隣人への声掛けによる個人的な支援などの小さな「互助」から始め、必要に応じて規模を拡大していく。(社協の公用車の活用など)



大麻(板東)地区 地域福祉活動計画

1. 地区の概要

地区人口	5,608人	民生委員児童委員	14人
65歳以上人口	2,027人	幼稚園・保育所 認定こども園	3か所
高齢化率	36.1%	小・中学校	2校
年少者(0~14歳)人口	590人	令和4年3月31日現在	
人口の増加	△5.8ポイント	鳴門市全体の数値	△6.8ポイント
65歳以上人口の増加	0.0ポイント		2.6ポイント
年少者人口の増加	△8.5ポイント		△15.3ポイント
高齢化率の増加	2.0ポイント		3.3ポイント

※ 数値は平成30年から令和4年までの間の増減を表しています。

2. 地区の現状と課題 (地域座談会で出た意見などをまとめています。)

- バスで市中心部まで出かけると、1日仕事になる。
- 地域活動に理解を示し参加する若い世代が少ない。
- 転入者との交流が進んでいない。
- 農業従事者が多く、高齢でも農業の手伝いなどで活動的な生活をしている。
- 小学校との協働で「絵本図書館」や「空き家お化け屋敷」などを企画した。
- 暮らしのサポートセンター「縁どころ」での活動が活発に行われており、地域の福祉施設との協働で買い物支援の取り組みを行った。

3. 地区で取り組むこと

若い世代の地域活動への参加

1. 学校運営協議会を通じて地域と学校の協働について協議し、地域団体とPTAをつなぐための事業や催しの実施について検討していく。
2. 地域の祭りに参加する子どもを通じてその親世代との接点を持ち、地域活動への参加について働きかけていく。

高齢者や障がいのある方とのつながりを深めていく

1. 暮らしのサポートセンター「縁どころ」で地域の福祉施設と協働して行っている買い物支援や利用者との交流を続け、相互理解を深めていく。
2. いきいきサロン活動との連携により地域活動を多くの人に知ってもらい、お互いに協力しあえる関係づくりに取り組んでいく。

困りごと解決に向けたネットワークづくり

1. 「縁どころ」を中心に実施する有志による高齢者等の買い物、外出支援について、地域全体への周知を行うことで利用者と併せて支援者を増やせるよう働きかけていく。
2. きめ細かな支援と地域団体役員などの負担軽減ができるよう、町内会の中の「班」による高齢者などの見守り活動を行っていく。



第4章 計画の推進と評価

1 計画の周知

本計画を広く周知するため、社協ホームページや広報紙「社協なると」などを活用するとともに、地区社会福祉協議会をはじめとする各種団体の定例会等において周知を図っていきます。

2 計画の推進体制

計画の目標達成のため、地区社会福祉協議会を中心として地域の方々とともに計画の実行を進め、それぞれの地域で実践される地域活動への支援について、事業計画に反映し、積極的に関わっていきます。また、必要に応じて進捗状況の把握や情報交換を目的とした集まりを開催します。

併せて、鳴門市地域福祉計画との連携を図りながら、鳴門市や各種関係機関との協働により計画を進めます。

3 計画の進行管理

本計画を着実に実行できるよう適切な進行管理を行い、社会環境の変化や国の動向を踏まえて、地域住民のニーズや経済状況の変化などに応じて、必要な計画の見直しを行い、効率的で弾力的な運用に努めます。

第2期鳴門市地域福祉活動計画

令和5年3月

発行：社会福祉法人 鳴門市社会福祉協議会
〒772-0003

徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜24番地の2

TEL 088-685-7170 FAX 088-686-4059